

内子 (えひめけん うちこ)

四国・愛媛県松山市で仕事をしたら、道後温泉でひと風呂浴びて、市内のホテルで1泊。翌朝は南に下って内子でブリーチャーWalkしましょう。600mの風情ある街歩きを楽しんだら、シャトルバスで松山空港に向かしましょう。

内子は古くから大洲（おおず）街道の要衝として、そして四国お遍路の拠点として栄えた町。江戸時代～明治時代にかけては高品質な木蠟の生産で名を馳せ、最盛期には全国生産の約30%を占めていたといわれています。大正時代に入ると石油や電気に押されて木蠟生産は衰退しますが、当時の繁栄をみせる商家の町並が残っており、1982年には四国で最初の国重要伝統的建造物群保存地区に選定され、年に50万人もの観光客を集めています。



内子座は大正五年（1916）、大正天皇即位の大典を記念して建てられた歌舞伎劇場です。時代の変化により映画館や商工会館に転用されてきましたが、昭和50年代に始まる内子町の歴史的環境保全運動の一貫として復元されることとなり、三年の歳月を掛けて、昭和60年（1985）に修復されました。

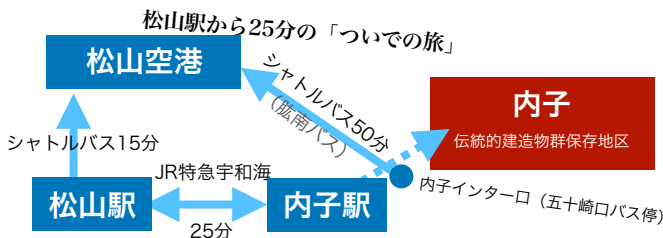


**本芳我家住宅**は本芳我家は木蠟生産の基礎を築いた本芳我（ほんはが）家の主屋は明治22年（1889）築。見事ななまこ壁の外観で、隣接する土蔵には当時の標章「旭鶴」の鍍絵が施されています。

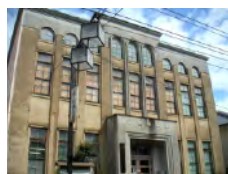
**大村家住宅**は寛政年間（1789-1801）に建てられ、木蠟生産が盛んになる以前の古い町屋の形式を残しています。残念ながら本芳我家住宅も大村家住宅も内部は非公開です。

# こんなにイイ町が隠れてた 愛媛県内子町

内子の駅前は何もありませんが、少し歩くと「内子座」が現れます。その先にはレトロなビジターセンターがあるので、そこで情報を仕入れ、その先の「商いと暮らし博物館」を見学してください。当時の商店の様子と生活の様子が手に取るようにわかります。食事の様子は蠟人形で知ることができます。使用人は座式の外の廊下で食べています。伊予銀行で左に上がっていくと町並保存地区が出てきて、一気に昔に引き込まれていきます。木蠟生産で発展した内子ですが、その木蠟で財をなした芳我家の筆頭分家・上芳我家の邸宅が木蠟資料館として公開されています。その建築の素晴らしさ、そして贅を尽くした生活の様子、更には木蠟の生産過程を知ることができます。この他内子町には沢山の見どころがありますが、シメはタレにつけた鯛の刺身をご飯にぶっかけて食べる「宇和島鯛めし」を楽しんでください。



内子へはJR松山駅から特急「宇和海」に乗れば25分で着いてしまいます。各駅列車だと二つの路線をまたぐので、接続が悪いと1時間以上掛かります。ここは特急を利用するか、高速バスを利用しましょう。内子から松山空港へ行くには、松山に戻らずに内子インター口（五十崎口バス停）からシャトルバス（脇南バス）に乗れば50分で着きます。でも12、15、17時台に各1本（2018、6現在）なので時刻を確かめておきましょう。



レトロなビジターセンター



商いと暮らし博物館（左は薬屋の様子、右は食事風景）

